

環境マネジメント

自然環境を護り、環境・安全・健康・品質を良好に保つことを企業目的の一つとし、環境管理活動に取り組んでいます。

推進体制

「大日精化環境方針」「環境に関する経営基本方針」に基づき、グループ全体で環境管理活動に取り組んでいます。

環境委員会が主体となり、化学物質管理委員会やエネルギー管理組織などと連携しながら環境管理活動に取り組んでいます。地球温暖化対策として、当社グループの企業活動のなかで消費されるエネルギーの有効利用の推進、温室効果ガスや大気汚染物質、PRTR対象物質の排出量削減に取り組んでいます。廃棄物は発生量そのものを削減する取り組みに加え、リサイクル化を推進しています。また、環境関連法規の順守状況を確認するとともに、近隣住民の方からの苦情に対しては、その原因を調査し対応を取っています。

大日精化環境方針

- ① 経営者、全社員が環境管理活動に参画します。
- ② 環境に配慮した製品の開発に努めます。
- ③ 環境負荷の減少に努力します。
- ④ 法規、条例、協定などを守ります。
- ⑤ 社会との調和を図るよう対話を深めます。

環境に関する経営基本方針

(2003年制定、2006年改訂)
この方針は、大日精化工業株式会社及び関連会社を含めた、国内外の大日精化グループに適用いたします。

基本理念	人類文化の保護発展と自然環境を護り、「環境・安全・健康・品質」を良好に保つことを企業目的の一つとします。
グローバル活動	国連環境開発会議の「アジェンダ21：持続可能な開発のための人類の行動計画」、および国連環境計画の「化学品の国際取引に関する倫理規範」を尊重します。
コンプライアンス	「環境管理」につき、国際規則および国内外の関係法令等を順守します。
企業の社会的責任	CSR：コーポレート・ソーシャル・レスポンシビリティ 「環境管理」につき、国際関係機関、国内外の行政機関および学業界団体等の環境活動に協力し、日本レスポンシブル・ケア協議会の一員として、その「レスポンシブル・ケアの実施に関する基準」を順守します。
グリーン調達	取り扱う化学物質の全ライフサイクルにわたって、「環境・安全・健康・品質」を確保し、推進に寄与するため、関係企業（顧客、供給者、同業者）と協力し、また協力をもとめ、同様の活動をする取引先を優先します。
社会との対話	地域社会・取引先企業等ステークホルダーとの積極的な対話を深め、融和を図っていきます。
従業員の参加	経営者、全社員が社内外で環境管理に積極的に参画すると共に、労使関係においても協力して、「環境・安全・健康・品質」の確保に努めます。
第三者評価	「環境管理」活動をより確実なものとするために、企業活動と一体化し、国際規格(ISO 9001, 14001)に合わせ、目標管理による継続的な改善を図っていきます。
経営資源の投入	経営者は、この「環境管理」活動を確実にするための経営資源の確保に努めます。

環境中期3カ年計画

2014年度から「環境中期3カ年計画」をスタートさせ、環境管理活動を推進しています。

環境に関する分野ごとに法的及び社会からの要求事項などをまとめ、具体的な行動指針・施策を設定し、各事業所のEMS*活動の強化と環境負荷低減に繋がる全社展開を強化しています。2015年度の実績、及び2016年度の目標・計画は下記の表の通りです。

* EMS: Environmental Management System の略で、環境方針を作成し、実施し、達成し、見直しかつ維持するための計画・体制・プロセスのこと。

環境中期3カ年計画の活動分野・目的・目標

分野	目的・目標	2015年度活動実績	2016年度目標・計画
1 地球温暖化対策	エネルギー有効利用を推し進める。 地球温暖化ガスGHG排出量の削減を推し進める。	エネルギー使用量、CO ₂ 排出量は減少したものの、エネルギー原単位の大きな製品が増加した影響により、原単位は+0.8%となり1%削減という目標は未達成。	① 製品品質を維持しつつ工程の改善によりエネルギー使用量削減。 ② 高効率モーター、LED照明などの高効率機器の導入。
2 環境配慮型製品の開発	環境配慮型製品開発を推進する。 環境配慮型製品の売上高比率を向上させる。	各開発部門で開発検討を進めていたが2015年度登録件数=0件。	開発検討中の製品の、早期製品化を推進する。
3 廃棄物削減 リサイクル推進	廃棄物発生量を毎年3%削減する。 リサイクル率を毎年3%向上させる。	廃棄物発生量は2014年度比1.5%増。 リサイクル率は2014年度比1.6%向上。	廃棄物発生量を2015年度比3%削減する。 リサイクル率を2015年度比3%向上させる。
4 化学物質の排出削減	PRTR対象物質の排出削減を進める。 揮発性有機化合物(VOC)の削減をすすめる。	PRTR対象物質排出量は190.7t(前年比13.1%削減)。	印刷インキのノントルエン化など芳香族化合物を削減、顔料合成時の有機溶剤使用量の削減の推進。
5 大気(臭気含) 水質(地下水含) 土壌汚染対策 振動・騒音	法令基準順守・届け出のチェック 特定環境対策を維持する。	各事業所とも法令違反はなし。 苦情は6件、5件は対応済み。 1件は原因の特定に至らず。	環境関連法規の順守の徹底に努める。
6 環境会計	当社に適合するシステムを検討する。	現行のシステムで収集可能な項目の確認、必要となるシステム改修の規模を検討。	環境会計の目的を踏まえた環境性報告の方法を検討する。
7 グリーン調達	運用管理システムの構築と規定の策定を検討する。	関係部門と協議を実施し、グリーン調達の範囲、方法を検討。	関係部門と運用範囲、運用方法の検討を行う。
8 社会との対話	情報公開(CSRレポート発行、各種調査回答など)。 地域社会・取引先企業等との対話を深め、融和を図る。	コーポレートレポートの発行。 お客様や行政などからの各種調査・アンケートに協力。	コーポレートレポート、webサイトの内容を充実させる。各事業所の地域交流を深める。

化学物質管理体制

法律の制定や改定などに合わせて、禁止・削減すべき物質の見直しを行い、また、正確な化学物質の安全性データを迅速に提供できる体制の整備を進めています。

化学物質管理委員会は各部門の化学物質管理担当者を委員とし、当社グループで取り扱う化学物質を適正に管理する活動を行っています。定期的に開催される委員会では化学物質管理に関する課題について意見を取り交わし、課題の解決や対応に繋げています。また、全社的な

SDS作成及び化学物質管理システムの構築を行い、当社グループにおける使用禁止化学物質及びその運用を定め「環境管理物質運用規定」の管理、運用を行うなど、グループ全体の化学物質管理体制の整備に取り組んでいます。

MESSAGE

委員会メンバーより

化学物質管理委員会 委員長 取締役 小城 義尚

現在、化学物質管理に求められていることは法律で規制されている以上の、より安全で安心な環境・職場・製品の確保、維持することです。化学物質に起因するリスクの回避、最小化のためには、個々の役職員の意識付けや正しい知識の共有化など、化学物質管理体制の強化が必要であると考えています。化学物質管理は安全衛生、環境、品質も関わるため、各委員会と連携を取りながら取り組んでいます。



安全保障貿易管理

国際的な平和と安全を確保するため、安全保障貿易関連法令を順守し、大量破壊兵器や通常兵器の開発などに転用可能な物や技術の拡散防止、過度な蓄積防止のため輸出管理に厳格に取り組んでいます。

「安全保障貿易管理」は、国際的な平和及び安全を維持するうえで、非常に大切な取り組みです。特に輸出を行う企業にとっては、重要度の高いテーマと言えます。当社では一部の貨物や技術が規制対象となっており、それらが誤って無許可で輸出されることのないよう、輸出管理委員会を設置し、安全保障輸出管理規程に基づいた適切な輸出が実行されるよう取り組んでいます。

また規制対象となる貨物や技術の輸出に関しては、輸出

管理内部規程を厳格に実施している企業のみに許される「包括輸出許可」を当社も取得しています。対象となる海外子会社は下記4社であり、厳しい自主管理のもとに適切に輸出しています。

- ① DAINICHI COLOR(THAILAND)LTD.
- ② DAINICHI COLOR VIETNAM CO., LTD.
- ③ 上海三井複合塑料有限公司
- ④ 東莞大日化工廠有限公司

COMMENT

委員会メンバーより

輸出管理委員会 副委員長 秋田 英雅

当社は過去の苦い経験から輸出管理委員会を立ち上げ、輸出管理を行っています。その活動により、輸出管理の重要性は海外担当部門に広く浸透しましたが、本来求められている輸出管理とは、直接貿易のみならず商社を経由する間接貿易も対象となります。

そのため、海外拠点や海外営業だけでなく、間接的に輸出に関わる国内営業にもその意義や重要性を一層浸透させていきます。



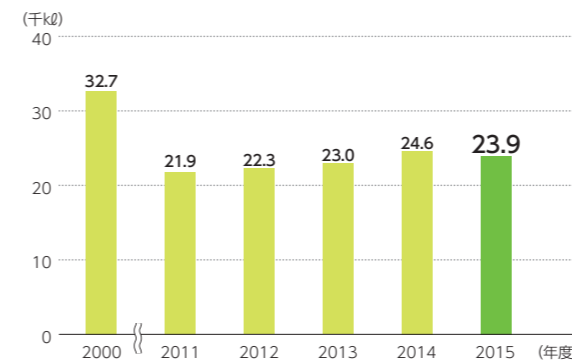
環境負荷低減

当社グループは常に高い品質の製品とサービスを提供すると同時に、事業活動に伴い発生する環境への負荷を減らす取り組みを行っています。

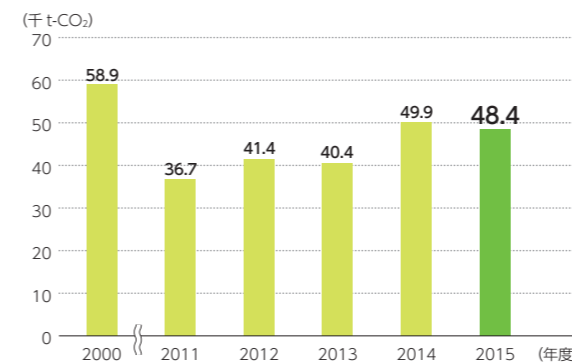
地球温暖化対策

地球温暖化対策として、当社グループの事業活動で発生する温室効果ガスの排出量削減に取り組んでいます。生産拠点ごとに削減目標値を定め、エネルギー消費効率の良い設備への転換や製造工程の改善、エネルギー消費設備の運用面の管理徹底など継続的な取り組みを行っています。しかし、2015年度は製造工程が長く、エネルギー消費量の大きい製品の生産数量が増えたため、エネルギー原単位では対前年度比0.8%の増加、CO₂排出量は対前年度比で3%減少という結果でした。

エネルギー使用量の推移(原油換算)



CO₂排出量の推移



大気汚染・水質汚濁防止

公害防止と環境保全の観点から大気汚染物質であるSOx^{※1}、NOx^{※2}排出量の削減に取り組んでいます。2015年度は、SOxは前年と同じ1t、NOxは対前年▲0.9tの22.1tという結果でした。

また、VOC^{※3}削減のため、製品開発段階から製品中のVOC含有量の低減を推進しています。水質汚濁防止対策としては、工場排水の水質管理を徹底し、規制値を順守しています。

2015年度に自主的な調査の結果、東海製造事業所の敷地内の一部から環境基準を超えるダイオキシン類が検出されました。速やかに行政に報告を行い、汚染物質の拡散を防止するとともに、東京製造事業所とともに土壌入れ替えなどの適切な措置を実施する予定です。

- ※1 SOx(Sulfur Oxide): 硫黄酸化物。大気汚染や酸性雨などの原因の一つとなる有害物質。
- ※2 NOx(Nitrogen Oxide): 窒素酸化物
- ※3 VOC (Volatile Organic Compounds): 揮発性有機化合物の総称。大気汚染と健康被害から低減化が求められている。

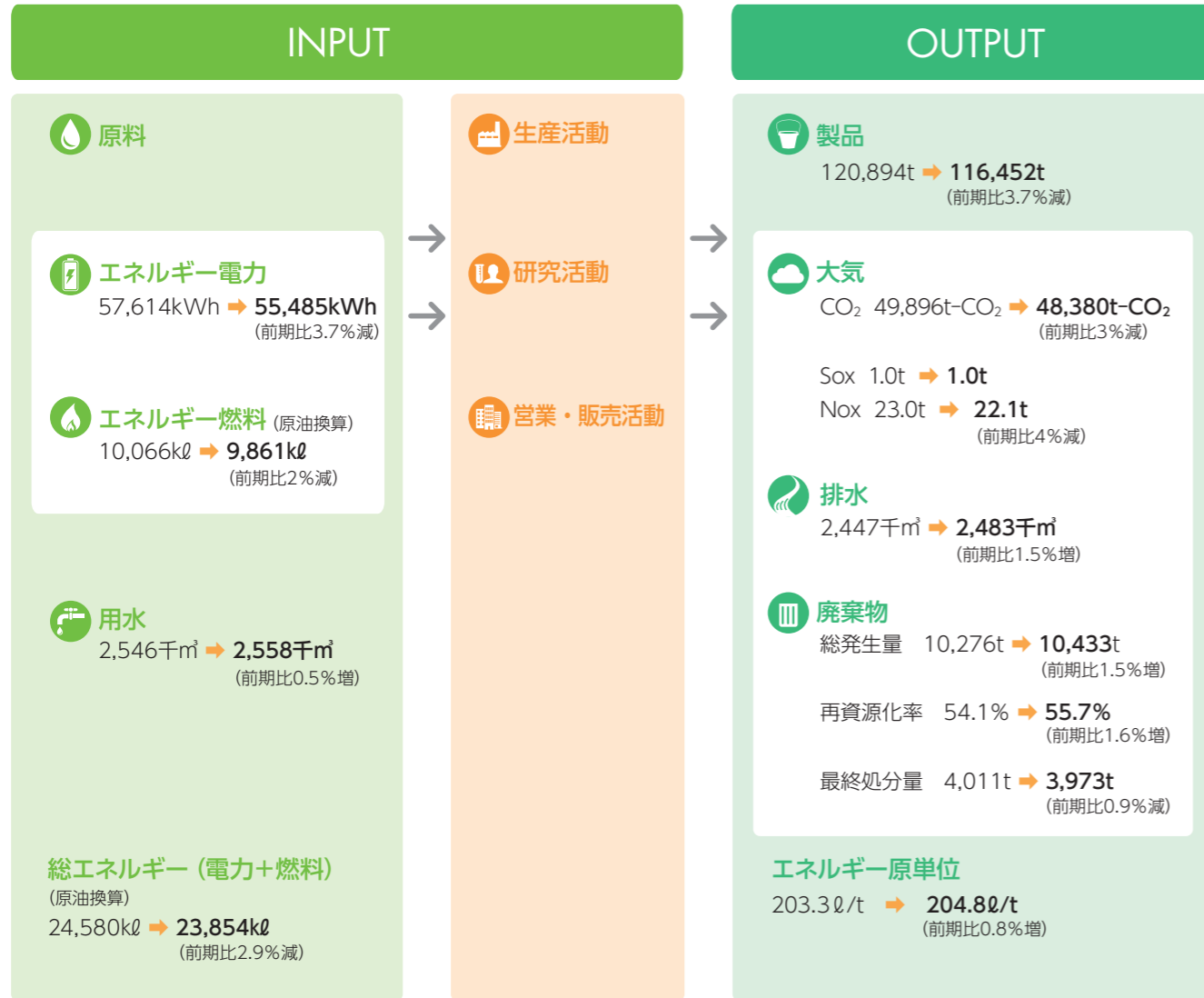
産業廃棄物削減

全国の生産拠点、研究開発施設において、産業廃棄物削減に向けて自主的な目標を立てて取り組んでいます。製造工程では溶剤回収率の向上に取り組み、製造過程で発生した廃溶剤は燃料としてリサイクル化を推進しています。また、污泥発生量の削減に取り組むとともに、リサイクル率を高めるため、セメント原料への有効利用などを進めています。2015年度は生産量は3.7%減少しましたが、産業廃棄物の発生量は1.5%増加(目標3%削減)しました。リサイクル率が1.6%向上(目標3%向上)したこともあり、最終処分量は0.9%減少しています。これからも3R^{※4}を推進して、産業廃棄物の削減に取り組んでいきます。

- ※4 3R: Reduce (減量) Reuse (再使用) Recycle (再利用) で廃棄物を削減する考え方。

事業活動のマテリアルフロー

当社グループの事業活動に伴い発生する環境負荷の低減を進めるため、消費した資源・エネルギーの量など発生した環境負荷に関するデータを集計・分析しています。



2015年度の自工場生産量は2014年度の120,894tから116,452tと対前年度比96.3%となったことに伴い、総エネルギー使用量は原油換算で24,578kℓから23,854kℓと対前年度比で2.9%減少しました。エネルギー原単位は製造工程が長く、エネルギー消費量の多い製品にシフトしたこともあり203.3ℓ/tから204.8ℓ/tと0.8%増加しました。CO₂排出量は生産量の減少に伴い、対前年度比で3%減少となりました。

お詫び コーポレートレポート2015で記載したマテリアルフローの数値が誤っていました。お詫び申し上げますとともに、訂正いたします。

● PRTRへの取り組み
 当社グループは化学物質の自主的な排出削減活動の一環として、1992年から開始された社団法人日本化学工業協会によるPRTR[※]調査に協力し、報告を行っています。
 2015年度の大気・水質・土壌への総排出量は、2014年度の219.4tから190.7tと13.1%減少しました。今後の施策として削減可能な化学物質を特定し、排出の抑制に取り組んでいきます。
[※] PRTR(Pollutant Release and Transfer Register): 有害性のある多種多様な化学物質がどのような発生源からどの程度環境中に排出されたか、あるいは廃棄物などに含まれて事業場の外に移動したかというデータを集計、報告し公表する制度。

大日精化グループネットワーク (2016年10月1日現在)

日本

大日精化工業株式会社

営業拠点

- 東日本支社
- 北海道支店
- 仙台支店
- 北関東営業所
- 静岡営業所
- 富士営業所
- 中部支社
- 北陸支店
- 西日本支社
- 岡山支店
- 広島支店
- 四国支店
- 九州事業所(九州大日精化工業株式会社)

生産・技術サービス拠点

- 北海道支店
- 加須製造事業所(大日カラー・コンポジット株式会社)
- 川口製造事業所
- 東京製造事業所
- 赤羽製造事業所(浮間合成株式会社)
- 佐倉製造事業所(浮間合成株式会社 佐倉製造事業所)
- 成田製造所(ハイテックケミ株式会社)
- 東海製造事業所
- 東郷製造事業所(大日カラー・コンポジット株式会社 東郷製造事業所)
- 滋賀製造所
- 交野製造事業所(大日カラー・コンポジット株式会社 交野製造事業所)
- 大阪製造事業所
- 広島製造事業所(広島化工株式会社)
- 九州事業所(九州大日精化工業株式会社)
- 熊本事業所(九州化工株式会社)

関連会社

- ディー・エス・エフ株式会社
- 大日プラボード株式会社
- 株式会社カラープランニングセンター
- 株式会社タウンアート

海外

アジア

- Dainichiseika (H.K.) Ltd.
大日精化(香港)有限公司
- Dainichiseika (H.K.) Colouring Co., Ltd.
大日精化(香港)化工厂有限公司
- Dainichiseika (Shenzhen) Trading Ltd.
大日精化貿易(深圳)有限公司
- Dongguan Dainichi Chemical Manufactory Co., Ltd.
东莞大日化工厂有限公司
- Daicolor Shanghai Mfg. Co.,Ltd.
大日精化(上海)化工有限公司
- Shanghai Daicolor & Fuji Co., Ltd.
上海大日富泉化工有限公司
- Shanghai Mitsui Plastic Compounds Ltd.
上海三井复合塑料有限公司
- Dainichiseika (Shanghai) Trading Ltd.
大日精化(上海)貿易有限公司
- Tai Chin Chemical Industry Co., Ltd.
台精化学工業股份有限公司
- AEOLIAN Corporation
亞祿股份有限公司
- Sambo Fine Chemicals Mfg. Co., Ltd.
三宝精密化学工業株式会社
- PT. Hi-Tech Ink Indonesia
- Esta Fine Color Corporation
- Dainichi Color Vietnam Co., Ltd.
- Dainichi Color (Thailand) Ltd.
- Dainichi Color India Private Ltd.

アメリカ

- Hi-Tech Color, Inc.
- Daicolor do Brasil Industria e Comercio, Ltda.
- DM Color Mexicana S.A. de C.V.

ヨーロッパ

- Daicolor Italy S.R.L.
- Daicolorchem EU, S.A.
- Plalloy MTD B.V.
- Dainichiseika Color & Chemicals Mfg. Co., Ltd. Europe Representative Office